

令和2年度大阪府立箕面東高等学校「第3回学校運営協議会」報告

【日時】令和3年3月16日（火）

【図書室】

【出席者】学校運営協議会委員：伊東義輝（大阪成蹊短期大学）
橋本 敏（箕面市立第六中学校 校長）
横谷 さゆり（本校PTA会長） ※意見聴取
篠崎 朗（本校同窓会会長）
須貝昭子（NPO法人：市民活動フォーラムみのお） ※オンライン参加
永井 潤（元本校校長）

校長：尾形 政則

事務局：川上慶次郎（教頭） 武内 由佳（教頭） 今西 隆司（事務長）、長崎 孝（首席）

【はじめに】

1. 校長あいさつ

【報告事項】

1. 学校運営協議会実施準則の改定について
2. 学校教育自己診断について

生徒

肯定的回答の全体に占める割合が増加した設問としては、次の通りである。

- 「本校志望の理由として『エンパワメントスクールであることに期待したから（志望理由）』」
- 「担任とのコミュニケーションが『よく取れている』」

肯定的回答の全体に占める割合が減少した設問としては、次の通りである。

- 「気軽に相談できる先生がいる」
- 「学校には自分の居場所がある」
分析) コロナの影響による居場所カフェ・クラブの中止によるもの
- 「キャリアガイダンスは、とても役立った」10パーセント以上の大幅な減少
分析) 企業の社長など、外部と関わるイベント中止の影響。
- 「クラブ（部活動）に入っている」割合
- 「学校行事に積極的に取り組んでいる」
分析) 文化祭・修学旅行の中止の影響

保護者

肯定的回答の全体に占める割合が増加した設問としては、次の通りである。

- 「学校のHPをよく見る」
分析) 大幅な改善。コロナ禍での連絡手段として活用された影響が大きい。
- 学校発信のライデンメールを活用している。
分析) HPと同様の理由で改善が見られた。

肯定的回答の全体に占める割合が減少した設問としては、次の通りである。

- 学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。
分析) 学校での保護者会が中止になった影響か。
- 生徒指導の方針に納得できる。
分析) コロナ禍で保護者とどう向き合い関わっていくかが課題。
- 兄弟や知人に箕面東を勧めたい。

教員

肯定的回答の全体に占める割合が増加した設問としては、次の通りである。

□「部活動の活性化について工夫している」

分析) 数値は改善されているが、加入率は減少。

肯定的回答の全体に占める割合が減少した設問としては、次の通りである。

□「学校運営に教職員の意見が反映されている」

分析) 大幅な減少。

□「働き方改革を意識した取り組みがなされている」

分析) コロナによる業務の増加が原因。

□「設備が整っている」

分析) オンライン、ギガスクール構想の整備が進んでいない。

□「読書指導に積極的に取り組んでいる」

(校長より) これらのデータを活用しながら改善していかなければならない。

3. その他 (令和2年度卒業生進路について)

進学

四年制大学が30名。短大は去年に比べて大幅に人数が減少した。

専門学校・その他は64名と平年並み。去年より卒業生は減っているため、割合としては増えた。

就職

女子と男子の比率がおよそ2:1。

アパレル系を希望する生徒が多かったが、合格率はかなり厳しかった。1月2月も受験していた生徒多数。コロナで試験などのスケジュールが全体的に後ろ倒しになった影響を受けた。

【協議事項】

1. 本年度の取り組み内容および自己評価

- ・国数英の理解度が上がっている。
- ・ICTの活用状況と、「わかりやすい授業」の肯定的数値が改善された。
- ・パラリンピックに関わるイベントを実施できた。
- ・「キャリアガイダンスが役立つ」という生徒は目標よりも少なかった。
→ コロナで外部講師を呼ぶことができなかったことも影響しているだろう。
今後リモートによる講演会にもチャレンジしていく。
- ・クラブ加入率の減少。なんとか改善して活気のある学校にしていきたい。
- ・オープンスクールの参加者は、去年よりも少なかった。
- ・オンラインへの対応、日々の消毒作業、ギガスクール構想など、新たな業務が増えた。
- ・教職員のストレスチェックの結果は、去年よりも改善された。

2. 令和3年度学校経営計画

今後地域連携をすすめてゆきたい

(意見・質問)

- ・委員C 「クラブの加入率が落ちたことについて。生徒向けのオリエンテーション等は実施したのか。」
- ・校長 「4月が休校中であつたため実施できなかった。休校が明けてからも、体育館に生徒を集めることに懸念があり、今年度はイベントができなかった。」
- ・委員C 「コロナの影響がないときは？」
- ・校長 「実施していた。運動部の大会や文化部の発表の場が中止になったことも、クラブへの勧誘という面で大きく影響している。」
- ・委員C 「よその学校はどのような状況なのか。」
- ・校長 「詳細なデータは手元にないが、同様の状況が予想される。」
- ・委員C 「今後もこのような状況が考えられる。どう対応していくのか、対策が必要。全生徒を集めなくても、少人数でも集めて、細かいことでもやっていかなければならない。」
- ・委員A 「来年度はどうする予定なのか。」

- ・校長 「新入生を体育館に集めることができるので、例年通り実施する予定。」
- ・委員A 「コロナのせいではなく、やりたいクラブがない可能性もある。生徒の要望を確認して、新たなクラブを新設していけたら少しずつでも改善されていくだろう。」
- ・教頭 「加入率は減っているが現状クラブ数は維持できているので、オリエンテーションに力を入れる。」
- ・委員D 「吹奏楽部は昔から人気があり、当時の箕面東には存在していないことが課題だった。クラブ加入率は勤務時間にも影響するので難しい所もあるが、かつて加入率が47.8%ほどあった時もある。当時の取り組みとしては、野球、演劇、写真など部活の内容をカリキュラムに取り入れた。選択授業に取り入れることで活性化を図った。単にクラブ案内をしてもなかなか集まらないのではないか。」
- ・委員A 「外部チームに在籍している生徒はどれくらいいるのか。中学ではサッカーやバスケットなど、学校のクラブでは物足りなくて外部チームで活動する生徒がとても増えている。」
- ・委員D 「そのあたりを探ってみて、いろんな手を講じていく必要があるだろう。」

2. 令和3年度 学校経営計画

- ・「めざす学校像」を作り替えた。地域性を色濃く出し、地域密着型の学校をめざす。
- ・3年連続で定員割れしており、統廃合の可能性あり。今後どうなるかは、学校教育審議会で議論されていく。残ることができたなら、地域密着型のより良い学校にしていきたい。
- ・新学習指導要領にあわせた授業の改善。
 - ギガスクール構想、ICT環境の整備、C-Learningの推進、教育のデジタル化。
- ・キャリア教育の充実。 → キャリアパスポートを活用。
- ・地域の団体、専門学校、企業との連携を全面的に押し出していく。
- ・いじめ対応。現状あまりよくない。 → 早期発見に課題ありか？改善を図る。
- ・広報の充実。新しいことを考えながら、地域密着型の広報活動を推進。

(意見・質問)

- ・委員A 「コロナの影響ですべてが特殊な状況であった。来年度は通常通りにできることを期待。」
- ・委員D 「めざす学校像は、規範意識を身に着ける、という観点が昔は強かったが、以前より大幅に変えた理由はなにか。」
- ・校長 「これまではアドミッションポリシーをもとに設定していた。アドミッションポリシーを変更するつもりはなく、これからも継続していく。それを組み込みながら『こう成長してほしい』という観点から書き換えた。」
- ・委員D 「3年連続で定員割れしているのが現状であり、統廃合となってしまう場合は、学校経営計画をどうこうしている場合ではない。一番の優先順位は定員割れに対してどうするか。そのあたりを分析、議論しているか。」
- ・校長 「受験生の人数自体がずいぶん減っており、これからも減るだろう。そんな中で私立学校は募集数を維持しているので、公立学校の人件費減少が府下全域で起こっている。地域の子を中心に集めたいが、箕面、茨木からの入学生は減っている。今年度は一時期定員近くの希望者数であったが、最終的には私立学校に人数をもっていかれた形となった。何か違う手を打たなければ、と考えているが、現状妙案がない。」
- ・委員D 「今年度の入学者数は？」
- ・校長 「172名。二次選抜で引き続き募集している。」
- ・委員D 「府教委から統廃合についての話はあったのか。」
- ・校長 「現状ない。例年通りであれば、夏の会議で判明するだろう。」
- ・委員D 「エンパワメントスクールの、中学校からの評価はどのようなものか。」
- ・校長 「中学や市教委からは、箕面東の取り組みがなかなか伝わりにくい、という印象を受けている。」
- ・委員B 「中学校に来てもらって、一緒に授業やクラブを体験できたらずいぶん良い影響があるのだが、今年度はそういった取り組みは厳しかった。」
- ・校長 「エンパワメントスクールとは？という意見はいまだによく聞く。」
- ・委員D 「『箕面東』としての評価はどうか。中学や委員会からの評価を持ち帰ってきてほしい。今年度のエンパワメントスクールはどれも定員割れしているのか。」
- ・校長 「8校中7校が定員割れしている。」

- ・委員D 「エンパワの役割、存在理由がなくなってきているのではないか。エンパワに対する府教委からの評価は？そのあたりを総括してもらって、定員割れしている責任の所在を明らかにして、どう生き残っていくのか検討しなければならない。中学校の校長からの印象、評価を上げないと、学校の宣伝のみでは中学校には響かない。「固有名詞」が必要。卒業生がどう成長したか等の情報を持って行って広報活動する必要がある。担任は生徒の本当の姿を知っているのに、デュアルの体験談などの情報をもっていく。共感が信頼感を生み、生徒を箕面東へと送ることにつながる。何に留意して広報活動を行うのが重要。私学でも定員割れしているところはあり、それらは広報活動がしっかりとできていない。私立学校は塾対応の説明会などをやっている。クリエイティブスクール時代は生徒の半数以上が塾に通っていた。生徒は進路指導については、親よりも塾の先生の話をよく聞く。人間関係もできている。塾の発言は大きな影響力があるので、私立学校はそういったところを対象に説明会をしている。そういった方向も視野に入れてみてはどうか。」
- ・校長 「個別指導塾シグマの相談会に出席した。今後狙っていきたい。」
- ・委員D 「あとはやはり、委員会にきっちり総括をもらわなければならない。否定的意見をもらうのは難しいが、なんとかして受け取り共有すべき。また、地域に重点化するのは良いが、もう少し「地域」を広げたほうがよい。箕面だけでなく、柔軟に広げて考えていくのはどうか。ただ、まずは箕面市教育委員会、箕面市長に働きかけて、箕面東を残す働きかけをしていかないとけない。」
- ・委員E 「先ほど値域連携のお話がでたが、生徒会メンバーが読売新聞の記者の講座を受け、試行錯誤して生徒会新聞を作成した。コロナ禍でなかなか現場での活動が難しいのが現状。スタッフと先生だけでは困難なので、管理職と今後について相談しながら進めていきたい。海外途上国への物品寄付ルートの相談も受けているが、コロナ禍で海外へのルートは難しい状況である。なんとか対応している状況であることも管理職に理解されたい。」